

漁最終日、沸き立つデッキ【水高記者DIARY】2月14日

地域 島根 石見

2024/3/4 (最終更新: 2024/3/4)

島根県水産練習船「神海丸」に乗り込み、ハワイ沖で実習に取り組む浜田水産高(同県浜田市)海洋技術科2年生、関蒼太朗さん(17)=広島市中区出身=が船上の日々を記します。



操業で採れたミズウオと記念撮影する関さん(2列目左)たち

2月14日 北緯15度57分 西経163度19分



浜田出港後27日目です。今日はいよいよ操業最終日、千秋楽となりました。神海丸では慣例として、この日は音楽を流します。太平洋にJ-popを響かせて漁をする実習船。はたから見れば少々異様な光景だったかもしれません。

慣れた操業も、音楽が流れると一気に雰囲気が変わります。ある曲ではデッキが沸き立ち、ある曲では皆がしんみりと聞き入り、普段以上の能率で作業しました。

能率の高さには実はもう一つ理由があります。最後の操業だからと、多くの生徒がボランティアとして参加し、ほかの人の作業を手伝っていたのです。皆の優しさが垣間見える瞬間でした。

私の役目は揚縄当直。最終日の当直は普段より難しいと言われて
います。音楽の流れる環境でデッキからの報告を聞き取ったり、復
唱したりする必要があり、いつも以上の声量と集中力が必要になる
ためです。しかし、元々当直の仕事が好きだったこともあり、大変
だけど楽しい時間でした。

この14日間、長いような短いような、しかし、終わってみれば確
かに短い時間でした。

明日からはいよいよハワイへ向けて航行し、18日にはホノルルに
入港します。しかし、明日からの4日間は大掃除や上陸前テストと
予定が詰まっています。この最後の仕事をこなすためにも、今日
はここまでとしましょう。（浜田水産高海洋技術科2年・関蒼太
朗）